



桑名市議会議員

Vol.16

倉本たかひろ

後援会レポート



<http://www.t-kuramoto.net>

発行者 倉本たかひろ後援会
〒511-0903 桑名市大山田4-18-16
TEL 090-6080-5869

ご意見・ご要望は上記の連絡先までお寄せ下さい。

大山田北小学校 卒業
陵成中学校 入学
光陵中学校 卒業
(学校の分離により2年次より光陵中学校に通学)
学法津田学園高等学校 卒業
東京経済大学経済学部 卒業
現在、桑名市議会議員

桑名市議会議員
津田学園評議員
社団法人日本福祉医療推進委員会 理事
大山田地区社会福祉協議会 相談役
株式会社BAC代表取締役
NPO法人なのはな音楽療法研究会 理事
東海若手市議会議員の会 事務局次長
三重県若手議員の会 会員 ほか

平成23年度3月定例議会にて、当初予算可決

平成23年度一般会計当初予算ほか34議案 賛成多数で可決

主な当初予算の内容

- ・健康増進施設予算の一時凍結
- ・桑名市病院整備基金条例の制定 など

県のヒアリングを傍聴 (山本総合病院との統合に関して)

桑名市民病院と山本総合病院との統合に向けたヒアリングが、津市で行われました。

桑名では以前から申し上げておりますとおり、産科医と小児科医が不足しており、大変に子育てのしにくい環境となっております。

さらに救急医療体制も整っておらず、大変深刻な事態となりつつあります。このような状況の中、一刻も早く桑名市が二次医療を受け入れられる体制を整えることが大きな課題です。

統合に向けた取り組みには県と三重大学との協力が必要不可欠です。

2月に行われた県のヒアリングでも、副市長や両病院の院長らがその意気込みを示しておりましたが、残念ながら県の反応としてはあまり色よい返事とは言えないものでした。

その原因としては桑名市自体がこの事業を必ず成功させるという強いメッセージが感じられないことが原因であると考えられます。

12月議会において調査費の予算計上を行っていることから、今回の統合に向けた市長の意気込みが感じられます。

しかし、調査費の計上は過去にも1度行っており、これまでとは異なるという熱い思いが完全には伝わっていないのが残念でなりません。

来年度当初予算案でも健康増進施設の建設費計上を見送ったり、新市民病院の建設基金を積み立てたりと環境整備に尽力はしています。

しかしやはりトップの強いリーダーシップの下にこのような事業は動くものであって、市長の口から直接この統合に不転の決意で臨むという強いメッセージがあったならば県や三重大学としても安心して協力を申し出やすいのではないのでしょうか。

現状において市の進める桑名市民病院・山本総合病院統合計画には私は積極的に支持していきたいと考えております。この計画を実現するためにも、市長の強いメッセージ性が必要です。

七和公民館 キッズサロンを視察

平成22年度から大山田公民館、七和公民館、城南公民館にて行われているキッズサロン(子育てサロン)。

子どものいる家庭が多い桑名市では、こういった子育て事業の充実も考えていかなければならないと捉えております。

平成22年度5月から1月時点でのキッズサロンの活動状況は月1~3日程度、大山田公民館一日当たり平均約77人、七和公民館一日当たり平均約20人、城南公民館一日当たり平均約22人というデータが出ています。

私が伺いました七和公民館では、狭いスペースに限られた時間(9時30分~11時30分)という環境にありながらも大変多くの人々が利用されていました。

キッズサロンは、未収園児の遊び場、子育て中の母親同士の交流といった利点があります。他に不要になった子どものおもちゃや絵本の再利用、母親の子育て鬱の防止などにも役立っています。

問題となりますのは、場所の確保及び開催時間だと思われます。

他事業の実施のためになかなかキッズサロンの時間を設けられず、活動日や活動時間が圧縮されてしまっていることは非常に残念です。この事業の良さをより生かすためにも今後活動をどのように進めていくか考え結論を出していかなければなりません。

子どもが少なくなってから子育て事業に力を入れ始めても意味がありません。

大切なのは、子どもが多い今にどのような行動を起こしていくかです。

今回の視察で以上のことを改めて感じました。

倉本たかひろの3月議会一般質問

道州制を考える倉本たかひろ

道州制とは？

道州制とは、国、道州、市が、それぞれの経済領域において独立した権限と税財源をもつという制度。もはや機能していない官僚制を撤廃し、政治・行政を身近なものへと変えることが道州制の狙いである。現在の国、県、市、その下に市民がいるという構造では情報・命令は滞り、巡りの悪い政治となっている。

～道州制メリット～

- ・政治と住民の距離が近くなる
- ・現場に近いので、責任の所在や情報を把握しやすくなる
- ・地域の個性、特色が強くなる
- ・地域に予算の決定権がある
- ・行政の効率化、スリム化を図れる など

Q1.道州制についての桑名市の取り組み、考え方は？

A1.もともと道州制は旧自民党政権下で研究されてきた概念であり、現在の民主党政権においてはマニフェストにも具体的な記載がない。道州制への移行には国のリーダーシップと各自治体の受け入れ体制が必要であり、基礎自治体として市が直接関わることは難しい。市としても権限移譲に対応できる組織や専門性の高い職員の育成が必要であると考えられるので、国や各都道府県の推移を見守っていく必要がある。

Q2.桑名市から先導していくという姿勢が大事ではないのか。その点はどうか？

A2.(道州制について)今後機会があったら市長会、協議会で発言していく。しかし、やはり強いリーダーシップをもってやってくれる人が必要である。市町村はそれに続く形をとる。道州制はひとつの大きな手法だが、そのためには市町村合併を行い人口40～50万人程度は必要だと思われる。

批評 当局、市長側の考えは非常に他力本願であり、市を自ら興していこうという気概が感じられない。また、市長にある市町村合併においてはまったくの的外れな意見である。

桑名版地域委員会の導入を目指す 倉本たかひろ

桑名版地域委員会とは？

道州制を導入し、地域に予算決定権を移譲する際に受け入れ先となる期間の名称。この決定権を持つことで、受益・負担の関係が明確化し、無駄をチェックしやすくなる。地域に直結しているため、地域の問題を把握できる上に仕事の責任の所在がはっきりとわかるという利点がある。また、倉本が提言し続けていることでもある。

Q.桑名市の「桑名版地域委員会」導入に向けた考え方は？

A.市直営で運営する際に出てくるメリット・デメリットを考えなければならない。また委員会に対し、すべての補助はしかねる。今後、協議・検討を進めていく。

批評 市には地域と行政の在り方をよく考えていただき、検討を進めてほしい。



山本総合病院と桑名市民病院の経営統合へ向けての桑名市の今後を問う、倉本たかひろ

Q1. 病院統合に向けて桑名市の意気込みが弱く感じられる。統合に向けての意気込みを問いたい。

A1. 桑名市においても、とくに救急医療、小児・周産期医療野体制を維持することは非常に困難である。市民の皆様に安全・安心な医療を提供できるよう地域医療対策に取り組むことが、喫緊の課題であると判断している。また病院整備基金条例及び基金積み立てを計上していることが、市長の強いメッセージである。再編統合に向けた取り組みについては、ラストチャンスだと認識し、誠心誠意努力している。

Q2. 県のヒアリングの感想

A2. 2月15日に三重県医療審議会地域医療対策部会のヒアリングが行われた。プレゼンテーションのなかでは、地域医療が危機的な状況であるという認識を持ち取り組んでいくとともに、単なる統合ではなく近隣地域の医療機関との役割分担や連携も視野に入れた計画であること、二次医療機能を担える中心的な急性期病院を整備することによって 地域医療体制が構築できるということをアピールした。委員からは、わかりやすいプレゼンテーションであると評価をいただいた反面、厳しい確認や統合後の具体策等の意見・質問もあり楽観視できるものではないと認識している。

批評 現在、山本総合病院と桑名市民病院の統合に向けた調査を進めていることは高く評価している。

しかし、現段階においての政治的メッセージが不足しているように感じる。「調査費を計上していることが政治的メッセージ」という発言を市長答弁からいただいたが、残念ながらメッセージとしては弱いという印象がぬぐえない。市長自らの口から両病院の統合に不退転の決意で望むとの発言があるべき。私としても、来年度当初予算でも健康増進施設の建設費計上を見送ったことは病院再編にける市長の意気込みであると推察している。さらに、現状において当局が進めようとしている独立行政法人に山本総合病院を統合する現行の計画を積極的に支持したいと思っている。やはり、県や桑名市民に向けた市長のメッセージが必要である。

制作にあたったインターン生よりコメント☆

桑名市の地域と行政が、理解・協力していくにはお互いを知らなければなりません。私は2ヶ月間倉本議員のもとでインターン活動を行ったことで、政治への関心をもつことの重要さを学びました。自分から知ろうという姿勢で環境は大きく変わっていきます。このレポートが皆様のお役にたてることを願っています。

石野

この2ヶ月間倉本議員の下でインターンシップ活動をさせていただいた中でも、このレポート配布によって私も多少なりとも市民の皆様の意見をお聞きする機会がありました。政治を良くするためには皆様の協力が必要です。このレポートを通して市政と市民の皆様が互いに理解しあい、接点を持つきっかけとなれば幸いです。

森下